

私の意見 「結果が示された」

2014.12.2 碓本岩男

1、まえがき

筆者が2014年4月に、本会の私の意見「判断材料の提供（その2）」を基に「保全の潮流」（日本保全学会）に投稿した「低線量被曝の人体への影響について」を、ある宗教学者がTwitterで取り上げていると、先日、友人が教えてくれた。

該当する2014年8月のTwitterを読んだ。無名な筆者の主張を、大学教授でもある宗教、倫理学者にせっかく取り上げてもらったので、Twitterの内容について筆者の考えを述べることにする。なお、Twitterの内容に関係するので福島の甲状腺癌についての最新の調査結果を紹介しておく。

メディアではほとんど取り上げられなかったが、11月14日に、福島医大の鈴木眞一教授が、福島の甲状腺検査で見つかった甲状腺癌の細胞について遺伝子変異を調査した結果を報告した。^(注1) この結果は、甲状腺癌の原因が放射線被曝ではないことを科学的に示したものである。

宗教学者のTwitterでは、福島の事故による甲状腺癌（その他の癌も）のリスクは低いとしたUNSCEARの報告書を批判し、福島では放射線被曝の影響で甲状腺癌が増えていると主張している一部専門家が紹介されていたが、鈴木眞一教授の科学的調査の結果により、甲状腺癌が増えている、今後も増える、という主張が間違いであるということが、明確に示されたのである。

(注1) 第57回日本甲状腺学会学術集会、2014.11.14 於：大阪

「甲状腺癌遺伝子変異 チェルノブイリと別型 福医大など見解」福島民報、
2014.11.15 他

2、学者のつぶやき

Twitterには、保全の潮流に掲載された「低線量被曝の人体への影響について（その2）」のURLが添付されていて、以下が記されていた。

「低線量被曝では人体への影響がないという根拠は、これを主張する専門家が多いからだそうです」

「碓本氏が挙げた専門家のリストを見ると、危ういことを堂々と述べてきた人のリストだと思ってしまいました」

「低線量被曝でも人体への影響があると主張する専門家は3氏しか見つからないのは、情報収集能力に問題があるのでは」

3、筆者からの返信

「低線量被曝では人体への影響がないという根拠は、これを主張する専門家が多いからだそうです」

⇒「低線量被曝の人体への影響について（その2）」の URL が添付されているので、これを読めば、低線量被曝では人体への影響がないという筆者の根拠が、これを主張している専門家の数が多いからではないことはすぐに分かってしまうのに、何故、こんな間違っ了解釈をつぶやく（公開する）のか、筆者には理解できないのである。

専門家の数の多さについて記載した原文は以下の通りである。

「低線量被曝の人体への影響について、専門家間で意見が分かれている、という表現も誤解を招く表現である。多くの人は 5:5 とは言わないまでも、7:3 ぐらいを想像するであろうが、低放射線の人体への影響に関しては、実際には 10:1 以下である。筆者の理解としては、専門家の意見が分かれているというよりも、100mSv 以下の低線量被曝が主要因で癌になることは科学的にはありえないということについて、ほんの一部の専門家が、同意を拒んでいるというのが実態であるという風に思えるのである」

メディアがアンケートを取った時に、意見が分かれているという表現を使うのは、55%と 45% ぐらいの比率までであり、60%と 40% では意見が分かれているとは言わない。ましてや、10 対 1 以下（91%と 9%以下）であれば、意見が分かれているというより、「ほんの一部の専門家が、同意を拒んでいるというのが実態」と表現することは自然であり、このことを言うために専門家の数を比較するのは妥当と思っている。

なお、低線量被曝では人体への影響がないという根拠は、私の意見「判断材料の提供（その2）」の「4. 筆者の主張」、または保全の潮流「低線量被曝の人体への影響について（その2）」の「3. 筆者の主張」で示してある。

「碓本氏が挙げた専門家のリストを見ると、危ういことを堂々と述べてきた人のリストだと思ってしまいました」

⇒危ういことを堂々と述べてきた、とする具体的な指摘はないので、これについては筆者の意見を言うことができない。Twitter なので、長文は書けないのであろうが、「低線量被曝では人体への影響がない」と言うことが何故、危ういことを述べてきたことになるのか、きちんとした論文などで、その根拠を示して欲しかった。ただし、「思ってしまいました」なので、思うだけなら根拠は不要なのかも知れない。

「低線量被曝でも人体への影響があると主張する専門家は 3 氏しか見つからないのは、情報収集能力に問題があるのでは」

⇒筆者は機械技術屋であり、放射線医学関連には疎いので、低線量被曝に関する情報収集能力に問題があるとの指摘は事実である。

宗教学者の Twitter には、津田敏秀教授、菅谷昭医師（現松本市長）の主張が紹介されて

いた。他に、PSR（社会的責任を果たすための医師団）とドイツ IPPNW（核戦争防止国際医師会議）による UNSCER の報告書への批判も紹介されている。

確かに、筆者が 3 人しか挙げられなかった専門家以外にも、(慢性的) 低線量被曝でも問題があると指摘している専門家はいるのである。(逆に、低線量の被曝では影響が無いと主張している専門家も、筆者が「低線量被曝の人体への影響について (その 2)」で挙げた人以外に多くいることも分かったが)

津田教授の主張を読んでも、医学には素人の筆者でも疑問に思う内容が多い。以前、以下を書いた^(注2)。

「技術屋が、技術(研究)論文を読んだ時、その結論の妥当性は、その論文に説得力があるかなしかで判断する。

説得力とは、研究(検討)目的がはっきりしていて、研究方法、研究のための条件が適切であり、裏付けとなる実験データ(研究成果)、引用文献などの根拠も明確で、結論に至る論理展開に矛盾がなく理路整然としていることである」

津田教授の主張は、福島では甲状腺癌が今後も多発する、ということであるが、裏付けとなるデータが不十分で、論理展開にも矛盾があり、説得力がないのである。

津田教授が 100mSv 以下でも影響があると主張する根拠は、①ICRP 等は、100 mSv 以下で影響が無いと言っているのではなく、統計的に有意ではないと言っているに過ぎないこと、②CT スキャンによる被曝では 100mSv 以下でも発癌割合が高くなっている、③福島での甲状腺癌の統計データから、甲状腺癌の多発が観察されている、となっている。

①は根拠ではなく、ICRP 等の見解と津田教授の主張とが矛盾していないということを言うためのものである。②については、CT スキャンによる急性被曝のデータであり、福島の慢性的低線量被曝とは被曝条件が異なるデータを示している。また、この CT スキャンのデータは、同じ急性被曝データとなる広島、長崎のデータと矛盾している (CT スキャンのデータは過度に癌の発生率比 IRR が大きい) が、この矛盾についての科学的考察もなく、説得力に欠けている。③についても、被曝線量と発癌割合が比例していないことの説明がなく、エコー検査で見つかった発癌の数と、実際に癌を発症した後の罹患率(有病率)と比較しているなど、科学的な根拠になっていない。

専門家ではない筆者でも、上記に示したように、簡単に津田教授の主張に科学的妥当性がないことは分かる。当然、もっと掘り下げた指摘が専門家からもされている^(注3)。

また、PSR とドイツ IPPNW による UNSCER の報告書への批判の内容は、福島の住民、作業員の UNSCER が推定している被曝量が疑わしい、被曝データの解釈に疑問がある、などである(即ち、もっと被曝しているので甲状腺癌は増えると言っている)が、冒頭に書いたように、既に、福島で放射線被曝により甲状腺癌が増加していないという科学的事実が示されており、批判は当たらず、UNSCER の報告書が妥当であることは証明されている。菅谷医師の主張についても同様に否定できる。

専門家である津田教授、菅谷医師が、何故、このように、科学的に真実が明らかにされ

る問題で、間違った主張をするのかは筆者には分からないが、脱原発に誘導することが正義と思い込み、そのためには真実を曲げてでも許されると考えているのかも知れない。

津田教授は反原発運動に係わっている人であり、菅谷医師も共産党（脱原発を主張）推薦で松本市長になった人であることを考えれば、世論を脱原発に導くために、結論ありきで、この結論に合ったデータのみ考慮して科学的には不適切な評価を行ったと勘繰られても仕方がないことである。朝日新聞の誤報問題でもあったが、個人的にどんな思いがあるにしろ、真実を追求しなければならないのは、報道記者だけでなく、科学者も同じである。

（注2）私の意見「技術屋の視点（その2）」2013.12.2

（注3）＜順不同、敬称略＞長瀧重信、祖父江友孝、鈴木元、鈴木眞一、西美和、大平哲也、太神和廣

4、まとめ

福島第一発電所の事故後3年半以上が経過し、多くの科学的事実が明らかになっているにも関わらず、相変わらず低線量被曝の人体の影響について、間違い、嘘をメディアなどで平然と述べる識者（著名人）がいる。

11月30日（日）の「たかじんのそこまで言って委員会」でも、竹田恒泰氏が、チェルノブイリ原発事故の人的被害（被曝による死亡者）について池田信夫氏が59人という数値を述べたことに関し、嘘つきと叫び、ロシア政府の発表で55,000人が死亡していると発言した。

嘘をついていると言われても仕方がないのは竹田氏であり、死亡した55,000人は、放射線被曝で亡くなった人の数ではなく、チェルノブイリ事故処理作業に従事した作業員84万人の中で2000年（事故後14年）までに、色々な原因で死亡した人の数値である。平均寿命の短いロシアでは、84万人の中での死亡数としては、自然な数なのである。

池田氏がチェルノブイリ原発事故の人的被害について発言している時に嘘つきと言ってこの数値を言ったので、視聴者が放射線被曝で死んだ人の数と誤解するのを承知で言っているのである。インターネットも良く見て、色々調べている竹田氏が、放射線被曝が原因で本当に55,000人が死亡したと信じているとは思えない。

これについては池田氏が自らのブログで正確な情報を載せ、反論している^(注4)。

また、同じ番組で、東京新聞の長谷川幸洋氏が、福島事故で国土の3%を失ったなどと言っていたが、これも、放射性崩壊による減衰、除染という科学的事実を無視した発言であり、間違いである。

過去には、都知事選に立候補した宇都宮氏が、IAEAの報告でチェルノブイリの放射線被曝による死亡者は4,000人であるとテレビ番組で発言していたが、これもLNT仮説に基づく単なる計算値であって、真実ではない。

権威ある機関が発表した色々な数値を、真実を隠して、都合よく脚色して使うのは、反

原発派が良く使う手法であり、朝日新聞の誤報問題と同じである。

世の中には、人の不安を煽り、そこにつけ込んでおれおれ詐欺をしたり、仏像、壺などを売り込んだりする人（組織）がいて、摘発もされ、メディアでも注意喚起している。

福島第一発電所の事故でも、危険、不安を煽り「とんでも本」を買わせた大学教授、反原発団体、サブリを売りつけようとした欧州反原発団体（ECRR）の博士がいた。また、太陽光発電の買取価格を高額にして儲けた実業家、自然（再生）エネルギーを原発の代替となると主張して名を売り知事選に出馬した環境学者、科学的事実を無視して原発の危険を叫び当時の空気では議員になったタレントなどもある。これらを悪徳商法と同じとまでは言わないものの、似たようなものと感じるのは筆者だけであろうか。

筆者は、専門家ではないものの、これまでも放射線被曝の人体の影響について述べてきた。それは、福島で帰還を妨げ、住めなくして復興を遅らせている真の原因は、低線量の放射線被曝ではなく、科学的事実を無視して危険、不安を煽る行為であると考えており、少しでも多くの人に科学的事実を知ってもらいたいからである。

その意味で、鈴木眞一教授により福島の甲状腺癌の調査結果が示されたことは、福島の人だけでなく、筆者にも喜ばしいことである。

（注4）チェルノブイリ事故の本当の被害、池田信夫 blog、2014.11.28

（この中で、竹田氏をワイドショー芸人と呼び、ゴキブリに例えたような表現は頂けない。真実を伝えるには、伝える側の冷静さが必要である）

「そこまで言って委員会」の放射能デマ、池田信夫 blog、2014.12.1

以上